

令和 7 年度 岩手県明るい選挙啓発 授業アンケート調査の結果について

1 岩手県明るい選挙啓発授業について

(1) 啓発授業の目的

児童、生徒、学生等を対象として、社会参加と政治や選挙を学び、選挙への興味・関心を高めることを目的として、選挙制度等の授業を実施するものです。

(2) 啓発授業の実績

令和 7 年度は、全体で 47 校、延べ 3,437 人の児童、生徒、学生が啓発授業を受講しました。前年度から 2 校減り、受講者数は 900 人程度減少しました。

(単位:校、人)

学校の別	令和 6 年度	令和 7 年度	差引増減
小中学校	8 校 ・ 269 人	18 校 ・ 797 人	+10 校 ・ + 528 人
高等学校	32 校 ・ 3,530 人	24 校 ・ 2,240 人	▲ 8 校 ・ ▲ 1,290 人
支援学校	5 校 ・ 120 人	2 校 ・ 103 人	▲ 3 校 ・ ▲ 17 人
大学等	4 校 ・ 472 人	3 校 ・ 297 人	▲ 1 校 ・ ▲ 175 人
合計	49 校 ・ 4,391 人	47 校 ・ 3,437 人	▲ 2 校 ・ ▲ 954 人

2 アンケート調査の概要について

(1) アンケート調査名称

令和 7 年度 岩手県明るい選挙啓発授業アンケート調査

(2) アンケート調査の目的

明るい選挙啓発授業の前後において、生徒等の興味・関心がどのように変化したかを検証するため、アンケートを実施しました。

また、このアンケート結果は、今後、明るい選挙啓発授業を県内で推進するため、未実施市町村をはじめ、関係機関に対する周知用チラシなどに活用し、啓発授業の普及・拡大を図ることとしています。

(3) アンケート調査の対象者

啓発授業を実施した学校が多かった高等学校の生徒を対象に、主に県が実施した高等学校 13 校 延べ 813 人から得たアンケートの回答を集計したものです。

なお、令和 7 年度に啓発授業を受講した高等学校の生徒数 (2,240 人) のうち 36.3% から回答が得られました。

(4) アンケート調査方法、調査期間等

令和7年4月1日から令和8年3月31日までの間に、啓発授業を受講した生徒を対象に、授業前と授業後にアンケート票を配布し、高等学校が取りまとめて、後日、事務局（県選管・市選管）へ送付する方法等により回収し、集計しました（全13校中、授業後のみアンケートを実施した学校は3校）。

3 調査の結果について（総括）

調査結果は、前年度とおおむね同様の結果となっており、啓発授業を実施することにより、生徒の政治等への関心や選挙への意義の理解度、投票意欲が大きく高まっていることから、引き続き、啓発授業を実施することが重要であると考えられます。

また、政治や社会問題に関心を持つためには、新聞記事を使った授業やディベートの授業を行った方が良いとの回答が多かったことから、より効果的な授業の実施方法について検討が必要と考えられます。

<参考> アンケート集計対象校内訳 ※欠席や未回答により集計数は少なくなっていること。

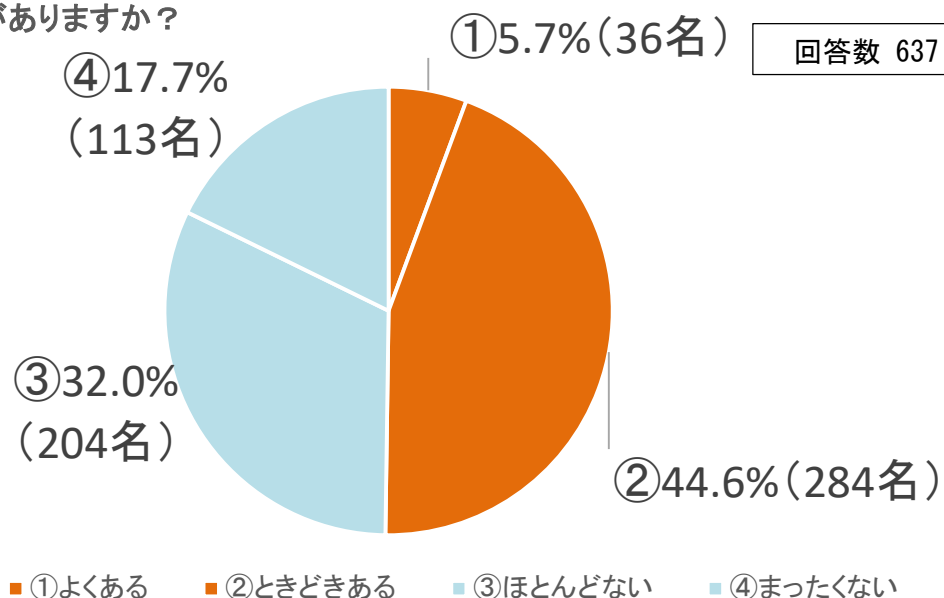
1	県立紫波総合高等学校(県主催)	3年生 (80名)
2	県立千厩高等学校(県主催)	3年生 (117名)
3	県立水沢工業高等学校(奥州市主催)	3年生 (123名) ※授業後のみ
4	県立山田高等学校(県主催)	2、3年生 (54名)
5	県立杜陵高等学校奥州校(奥州市主催)	全学年 (44名) ※授業後のみ
6	県立宮古高校定時制(県主催)	全学年 (17名)
7	県立前沢高等学校(奥州市主催)	2年生 (23名) ※授業後のみ
8	県立北桜高校(県主催)	3年生 (59名)
9	県立盛岡第三高等学校(県主催)	文系2年生 (103名)
10	県立大東高等学校(県主催)	2年生 (49名)
11	県立沼宮内高等学校(県主催)	2年生 (20名)
12	県立水沢商業高等学校(県主催)	2年生 (96名)
13	県立花泉高等学校(県主催)	2年生 (28名)

(1) 政治等への関心について

授業実施後、家族や友人と政治や社会問題について話してみようと思う生徒が授業前に比べて大幅に増加しており、啓発授業を通じて、生徒の政治や社会問題への関心が高まったことが分かります。

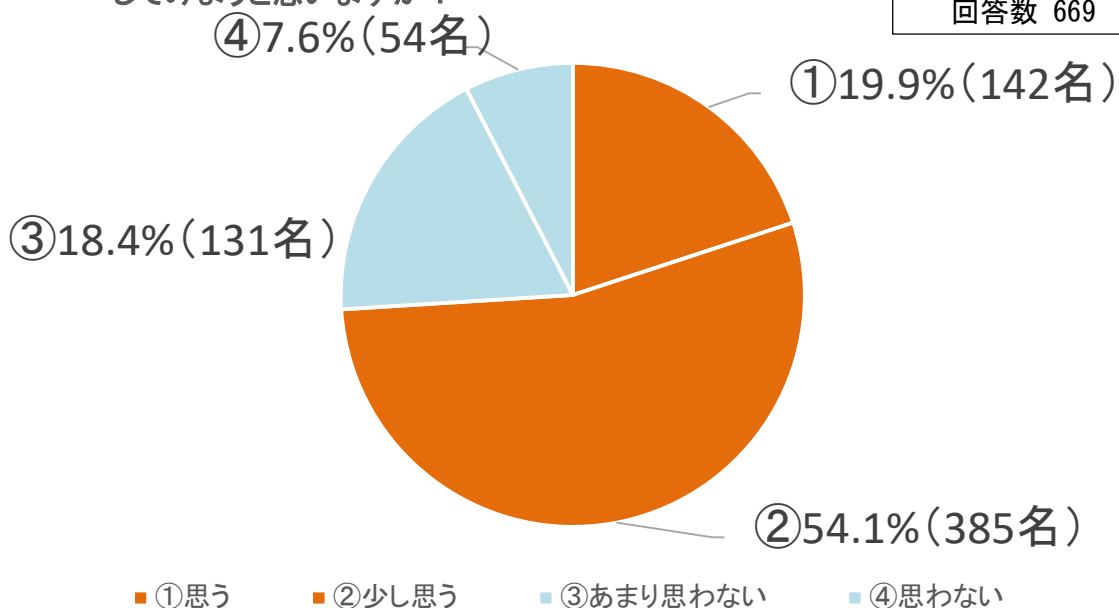
(1)－1 【授業前】家族や知人(友人)と政治や社会問題について話すことがありますか？

回答数 637



(1)－2 【授業後】家族や知人(友人)と政治や社会問題について話してみようと思えますか？

回答数 669

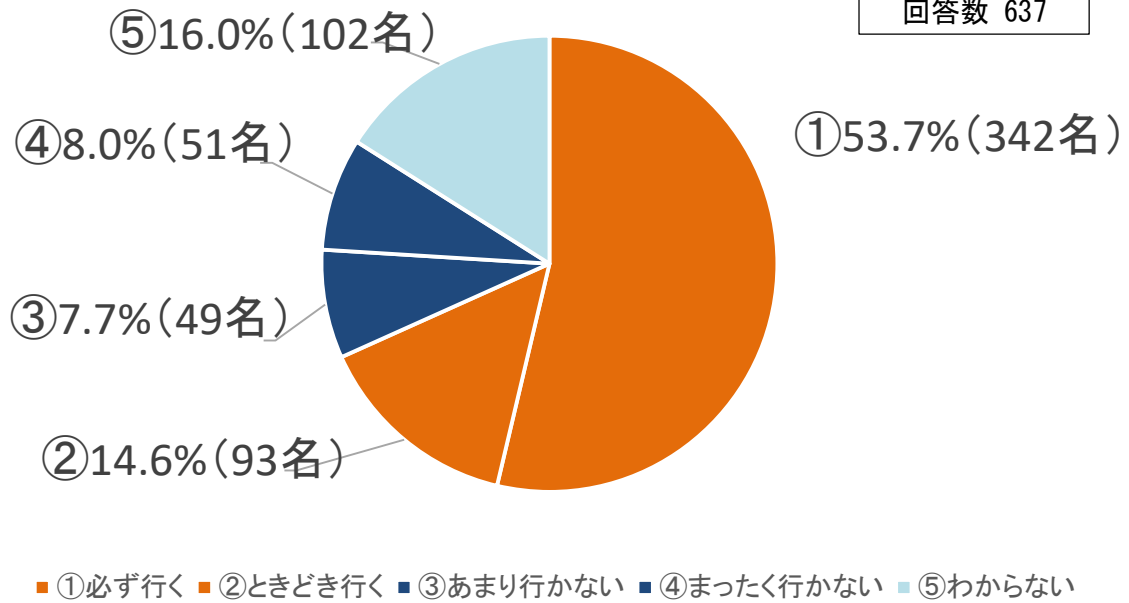


(2) 家族の投票行動について

半数以上の家庭が必ず投票に行き、ときどき行くという家庭も合わせると7割近くが投票に行くという結果となりました。しかし、16.0%の生徒が「家族が選挙に行っているかどうか分からない」と回答しており、引き続き、家族の投票行動についても関心を高めていくような取組が必要です。

(2) 【授業前】あなたの家族は選挙の投票に行きますか？

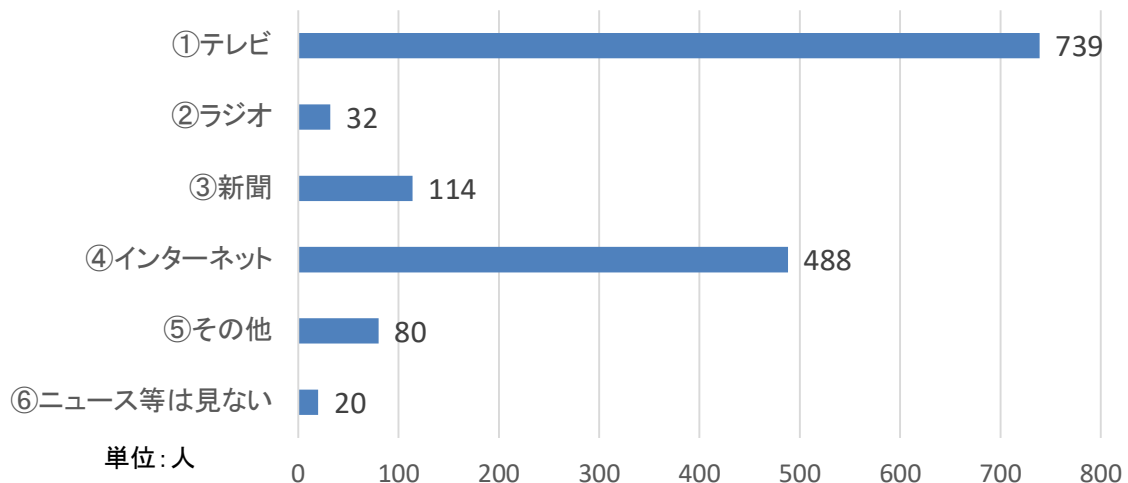
回答数 637



(3) 高校生のニュースソースについて

前年度と同様、政治や社会問題のニュースを見たり聞いたりするのは、テレビが一番多く、次いで、インターネットから情報を得る人が多く、ラジオや新聞から情報を得ている生徒は、少ないことが分かります。

(3) 【授業前】どのメディアで政治や社会問題などのニュースを見たり聞いたりしますか？(複数可)

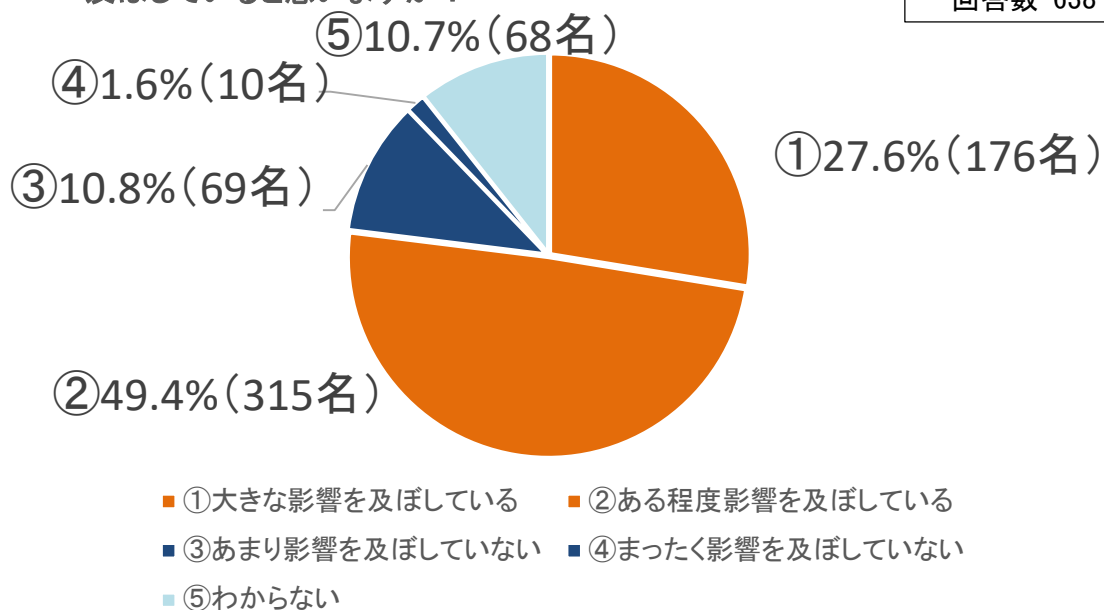


(4) 選挙の意義について

授業実施後、選挙の際に投票することは、政治に影響を及ぼしていると感じている生徒が増加しており、啓発授業を通じて、投票の重要性への理解が深まったことが分かります。

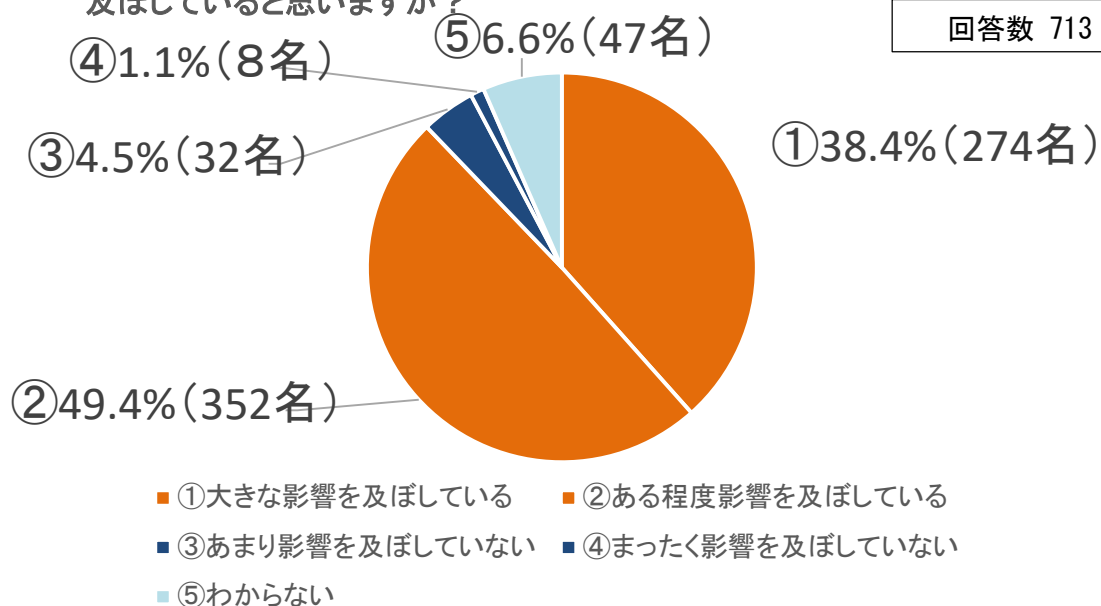
(4)－1 【授業前】選挙の際に投票することは、政治にどの程度影響を及ぼしていると思いますか？

回答数 638



(4)－2 【授業後】選挙の際に投票することは、政治にどの程度影響を及ぼしていると思いますか？

回答数 713



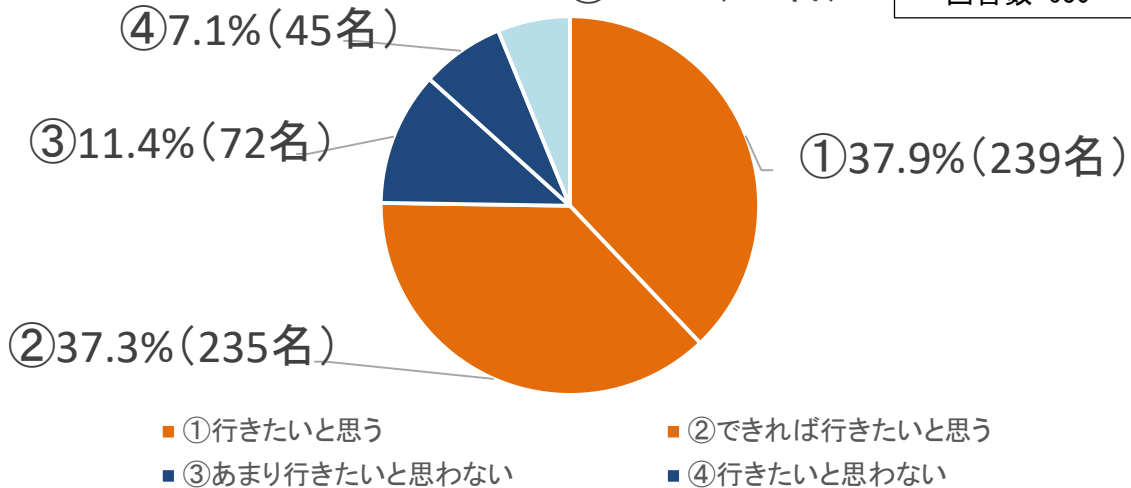
(5) 投票意欲について

授業実施後、投票に行きたいと思う生徒が増加し、全体で9割を超える生徒が投票に行きたいと考えるようになっています。

(5)-1 【授業前】18歳になったら(18歳以上の人は最初の選挙で)投票に行きたいと思いますか？

⑤6.2%(39名)

回答数 630

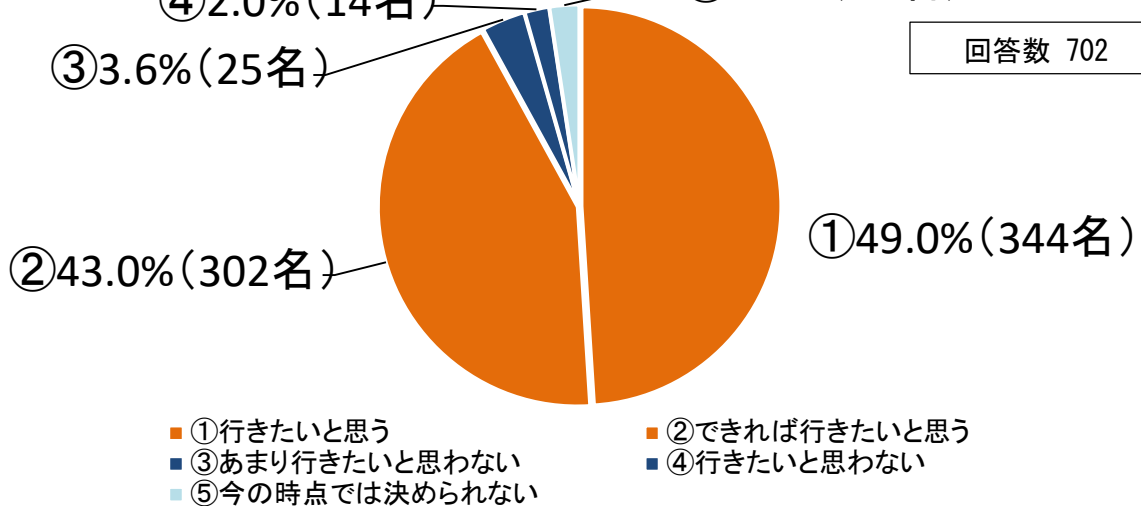


(5)-2 【授業後】今日の授業を受けてみて、あなたは18歳になったら(18歳以上の人は最初の選挙で)投票に行きますか？

④2.0%(14名)

⑤2.4%(17名)

回答数 702



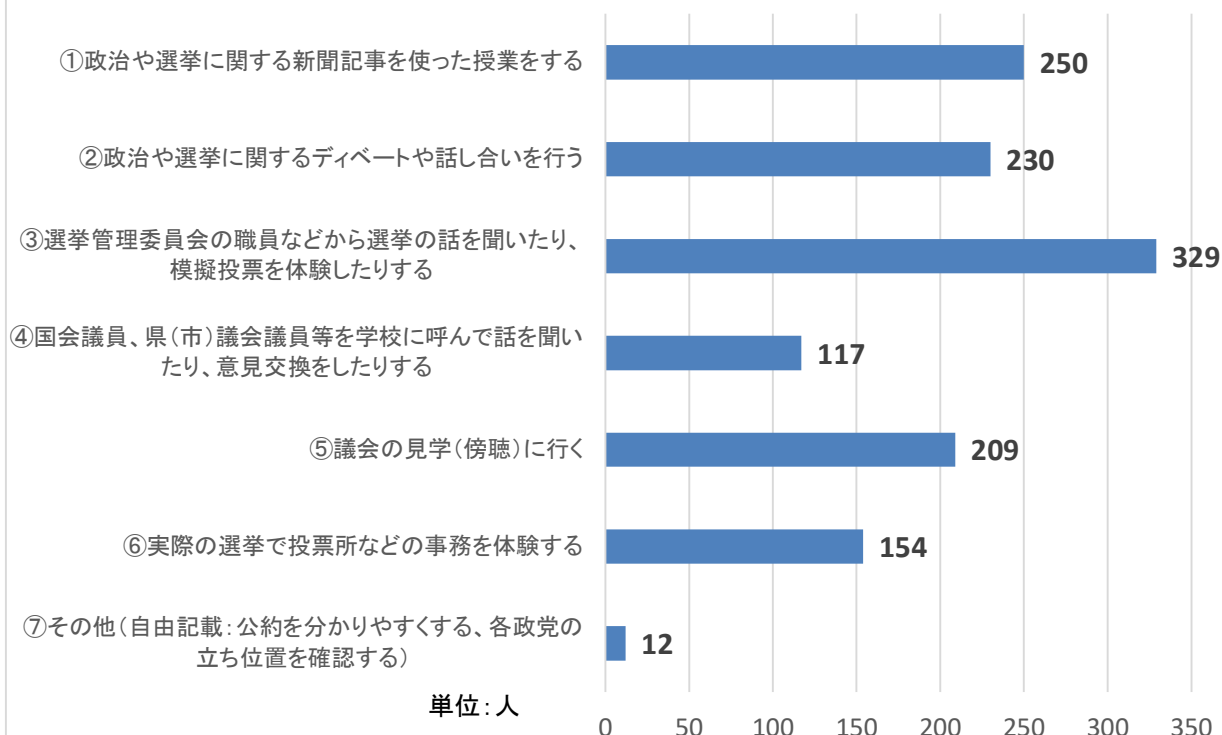
(5)-3 「今日の授業を受けてみて、あなたは18歳になったら(18歳以上の人は最初の選挙で)投票に行きますか？」において「③あまり行きたいと思わない」「④行きたいと思わない」「⑤今の時点では決められない」を選択した主な理由

- ・今はまだ政治についてよく分かっていないから。
- ・義務化されていたら「行かなきゃ」と思うが、そうではないし面倒だから
- ・行くのが面倒、自分の一票に大事さを見出せない
- ・今の政治家のように公約を守らない人がいるかもしれないから
- ・あまり興味がないから
- ・いいと思った人がいなさそうだから。など

(6) 授業の内容等について

前年度と同様、「選挙管理委員会の職員などから選挙の話を知ったり、模擬投票を体験したりする」の回答が最も多く、次いで「政治や選挙に関する新聞記事を使った授業をする」「政治や選挙に関するディベートや話し合いを行う」が多くなっています。啓発授業の取組を継続して実施していくことに加えて、今後の啓発授業の内容の見直しを図ることも重要と考えられます。

(6)-1【授業後】高校生が政治や社会問題に関心を持つためには、何をすれば良いと思いますか？



(6) - 2 今日の授業内容のほかに取り上げてほしいこと(知りたいこと)はありますか？

・政治家や議員の仕事内容、給料、年収など
・海外の選挙方法など
(少数意見)政治家の公約はどのくらい達成しているか、選挙に立候補する方法、電子投票が実装されない理由、若者が政治参加しやすくする社会を作るには、体の不自由な方の投票方法 など

3 授業に関する意見・感想等（授業後アンケート 自由記載 ※抜粋）

（1）授業を受けての変化について

選挙に行くのが面倒であり、選挙や政治について興味も無かったが、授業を通じて、自分の意見を持って投票に行こうと思った、選挙について理解が深まったという記述が見られました。

・公約の内容が自分の中の争点や、今の世の中の課題などに触れているだけでなく、実現することが可能な公約なのかを知って、考えることが大切だと感じた。実際に参加する際も、その公約がどのような影響を与えるのかを考えて投票をするように意識したい。

・今までは選挙にあまり関心を持っていなかったけど、選挙啓発授業を受けて、投票のやり方や、若い人たちの選挙への関心のなさを知って、これから自分も投票できるようになるので、少しでも関心を持ってみて、学んだことを生かそうと思いました。

・今回の授業がなかったら、適当に人を選んでいたと思います。公約の見方を覚えたので、18歳になってから選挙に行った時に活用しようと思います。

・模擬投票を体験することによって投票のイメージができたし、18歳になったら絶対投票しに行って自分の意見を政治に反映させたいと思いました。

（2）投票意欲の向上について

授業を受けることで、あらためて選挙や政治への関心が高まり、18歳になったら投票に行きたいといった記述が多く見られました。

・少し政治や選挙に興味はあったけど、詳しくは知らなかったなので、話を聞くことができ良かったなと思います。票を入れる人をどうやって決めるかや、投票の仕方など、実際にやってみたらこそ、理解できる部分が沢山ありました。18歳になったら、積極的に参加したいと思っています。

・税金の種類や選挙の投票のやり方を知れて勉強になりました。私も投票に行こうと思っていましたが、アルバイトで行けなかったなので、今後は行くようにしたいです。

・授業前から選挙に行こうと思っていましたが、授業を受けて、公約をちゃんと読み、自分の考えに一番合った政治家を選ぼうと思いました。ありがとうございました。

(3) 模擬投票の有効性について

模擬投票を行うことで、今まで投票の流れが分からなかったが、実際に体験してみると簡単に投票できることが分かった、投票に行くハードルが下がった、投票するというイメージを持てたという記述が多く見られました。

・投票する場所がどのような雰囲気か、あまり分かっていなかったなので、知れて安心した。模擬投票をするまでは、投票に行くのは緊張するのだろうなと思っていたが、仕組みが分かると不安がなくなった。

・小さい頃、両親と一緒に投票所に行ったことを思い出しました。小さい頃、ぼんやりとしていたものが模擬投票を行って理解することができました。それと同時に、自分にも権利が与えられ、より責任が伴っているんだなと実感することができました。

・若者の政治への関心を高めるために、この活動を続けてほしい。今回の授業の模擬投票で投票のやり方を知ることができたので、実際の選挙の投票も迷わずやることが出来ると思う。

(4) その他

若者の一票が大切なものだと分かった、選挙制度について知ることができた、友人なども巻き込んで投票に行きたい、ニュースや公約を見ようと思った、といった記述が見られました。

・選挙に参加しない人が思っていたより多かった。若い人が選挙に参加しないと、高齢者向けの公約になってしまうことが分かったので、参加していきたいと思った。

・20代の投票率が低いのは、関心がないことの他に、遠くに住んでいるけど、住民票を移していないことも要因の1つだったことを学んだ。選挙のときに9億円もかかっていたことを初めて知った。人口が少ないから、あまりかかっていないと思っていた。

・今回の授業を受けて、私達のような若い世代が選挙活動に参加する意味や大切さを改めて知ることが出来た。18歳になって選挙が行われる際には、自分も投票したり、友人などにも選挙に行くことを進めて、周りの人を巻き込んで選挙活動に参加していきたいと思った。

・いつも政治については、ニュースとかは見るけど、まだ選挙権がないので、いつも上の空という感じだったけど、今回の学習でもっとニュースとか公約とかを見ようと思いました。